

5万円を切るワイヤレス対応のタリーランプシステム「FlexTally」発売

コネクテッド・ハードウェアの企画・開発を手掛ける株式会社 Cerevo は、ワイヤレスと有線の両接続に対応したタリーランプシステム「FlexTally(読み:フレックスタリー)」を12月下旬に発売、予約の受付を11月30日に開始します。直販サイト「Cerevo official store」の価格は49,900円(税別)です。



FlexTally

<https://flectally.cerevo.com/>

FlexTally は、スイッチャーに接続するステーション(親機)1台と、カメラに取り付けるランプ(子機)4台がセットになったタリーランプシステムです。番組の収録やライブ配信の現場などで複数のカメラを使って撮影する場合、スイッチャーのスイッチング操作に合わせて FlexTally のランプが自動的に点灯することで、出演者はどのカメラ映像が使われているのかを簡単に把握することができます。

スイッチャーは Cerevo のライブ配信機能搭載スイッチャー「LiveWedge」のほか、他社のスイッチャー※1にも対応。LiveWedge と組み合わせて利用する場合は特別な設定が不要で、ステーションを LiveWedge と同一の LAN に接続するだけで利用できるほか、ルータを介さず LiveWedge と直接接続することも可能※2です。他社製スイッチャーは BlackMagic の ATEM シリーズ、NewTek の TriCaster シリーズのほか、GPIO 接続が可能なスイッチャーに対応しています。



ランプには 6 時間の駆動が可能なバッテリーを内蔵しており、電源が確保できない場所でも利用できます。ステーションとランプの間は障害物や輻輳に強い 315MHz 帯※3(特定小電力無線)のワイヤレス通信が可能なため、現場で面倒な配線を行うことなく導入できます。また、無線環境が不安定な環境でも安定した通信が行なえるよう、RS-485 のシリアル通信による有線接続もサポートしました。



ワイヤレス通信は数十 m の距離※4 での通信が可能なほか、有線の場合は数百 m の長距離でも敷設が可能。有線接続時は端子台を介することでデジチェーン接続にも対応しており、配線をシンプルに保つことができます。

ランプは 1 台のステーションに対して 16 台まで追加が可能※5。ステーション、ランプ共に本体に搭載された設定スイッチを操作することで設定の変更や ID の割り振りが可能なため、撮影現場でランプの接続数や接続形態を柔軟に変更できます。



仕様

無線通信方法	315MHz(日本)※3	
有線接続方法	RS-485 シリアル通信	
接続可能ランプ数	16 台※5	
電源	ステーション	Micro USB 給電
	ランプ	Micro USB 充電(給電可能)
ランプ駆動時間	約 6 時間(6~12 時間(輝度設定やご利用環境により変動します))	
ランプ充電時間	約 2 時間	
本体サイズ (W×D×H)	ステーション	128×77×28 mm
	ランプ	100×60×50 mm
重量	ステーション	142g
	ランプ	164g

Cerevo 動作確認済み他社製スイッチャー(2017年11月30日時点)

メーカー	製品	接続方法
Blackmagic Design	ATEM Television studio	ネットワーク
	ATEM Television studio Pro HD	ネットワーク
	ATEM Production Studio 4K	ネットワーク
ローランド	VR-4HD	専用ケーブル(GPIO)
NewTek	Tricaster 460	専用ケーブル(GPIO)
	Tricaster TC1	専用ケーブル(GPIO)
ソニー	MCX-500	専用ケーブル(GPIO)

※1 他社製スイッチャーとの接続は Cerevo が提供する専用ソフトウェアによる設定または GPIO 接続のための専用ケーブルが必要になります。専用ソフトウェアの対応 OS は Windows 10/8.1/7 で、Mac OS は今後対応予定です。

※2 LiveWedge との直接接続は LiveWedge のファームウェアアップデートが必要です

※3 国内版の仕様となります。海外版は 433MHz の特定小電力無線を採用しています

※4 実際の距離は環境によって異なります

※5 ファームウェアアップデートで最大 32 個のランプに対応する予定です。また、GPIO 接続時は 8 個のランプのみ制御可能です。